

第六回 酒都で聴く女流義太夫の会

一人間国宝の競演— 良弁杉由来 二月堂の段



令和4年 8月28日(日)

白鷹緑水苑 宮水ホール

15:00 開演 (受付開始・開場 14:30)

酒どころ西宮は、文楽の源流「傀儡師」発祥の地といわれ、古くから芸能と大変ゆかりの深い町です。白鷹緑水苑では、西宮蔵元の文化施設として2001年にオープンして以来、この酒都から、能や文楽の催事を中心に、今に生きる伝統芸能を発信してゆこうという試みを続けてきました。そして2017年からは人間国宝の竹本駒之助さんをお招きして女流義太夫の会を開催しています。第6回目となる今回は、昨年に引き続き、緑水苑の文楽公演「酒屋万来文楽」にご出演いただいている吉田和生さんをお招きし、人間国宝お二人による特別競演といたしました。

本来素浄瑠璃で上演される女流義太夫が、文楽人形を伴うことは非常に稀なことです。戦前から1960年代にかけて、大阪では両者共演の人形浄瑠璃公演が定期的に行われていたそうです。そしてそこに参加していたのが当時若手だった吉田文雀師と、駒之助師だったということです。その後久しく途絶えていたこの文楽人形と女流義太夫の共演が、2008年、東京で、文雀師と駒之助師による「二月堂の段」で復活しました。そして2018年には、関西でも、ここ白鷹緑水苑にて、駒之助師と吉田和生師による「壺坂観音霊験記」で実現し、

昨年の「重の井子別れの段」に続き、両人間国宝によるここ西宮での競演は今回で3回目となります。

今年8月20日、白鷹禄水苑の文楽公演「酒屋万来文楽」でお世話になっていた文雀さんの七回忌を迎えたにあたり、2008年の文雀師と駒之助師による、記念すべき人形浄瑠璃復活共演の演目「二月堂の段」を、文雀さんにかわり和生さんの渚の方で再び取り上げ、女流義太夫の振興にも惜しみなく力を注いでおられた文雀師を偲ぶと共に、文楽人形と女流義太夫共演の軌跡を辿ることにいたしました。

極めて写實的に「情」を語ることが大切とされる義太夫節の世界で、男女を超えて最高峰の一人とされる駒之助師匠と、人間が演じる以上にその心の機微や情の深さをあますところなく表現する和生師。お二人の至芸により、艱難辛苦の日々を乗り越えてなお切ないまでに子を思う母の気持ちと、高僧とあがめられながらも、純粹無垢に親を思う気持ちが、まさに一つとなって昇華され、感動的なラストを迎えます。

公演後の第二部では、お二人による対談形式で、文雀師の思い出も交え、関西におけるかつての女流義太夫界、文楽界、また両者の交流についてなど、貴重なお話をおうかがいしました。





出演者

太夫 竹本駒之助（文化功労者・人間国宝）

三味線 鶴澤津賀花

人形 渚の方 吉田和生（人間国宝）《特別出演》

良弁僧正 吉田玉佳

他

プログラム

第一部 人形浄瑠璃公演

「良弁杉由来 二月堂の段」

休憩 （蔵出し限定酒のドリンクサービス）

第二部 人間国宝対談 竹本駒之助×吉田和生

「吉田文雀師と女流義太夫」